

文芸ふじさわ

第57集



表紙のことば

郷社 大庭神社

55年前、父と初めてこの神社に詣でた時は、郷社という文字がモルタルで埋められていた。昭和45年頃。

表紙絵取材のため、1月21日・26日と訪れた。寒い日でスケッチの線が思わず震えた。由緒書きより……。

安永6年大庭景親公、配神ス。後、天明3年菅原道真公を勧請ス。
大庭神社は学問の神サマも祭っている。知らなかった。

この大庭神社は、昔々は大庭城址の近くにあったそうです。たまたま参拝に見えた婦人よりの情報。

この地から、20～30分ぐらいの所に「サバ神社」がある。石川、祭神は「源義朝公」鎌倉幕府を開いた頼朝の父である。

……不思議な因縁を感じた。目と鼻の先に源平合戦の歴史があり、当時、両者とも会っている時はさほど意識してはいなかったのではないかと思われる。

私から見ると二人とも、悲劇の武将である。詳しくは藤沢市史をご覧ください。

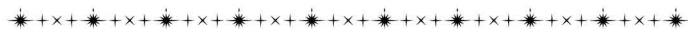
こんな小さな神社にも、歴史の一頁を語るエピソードが眠っている。
……兵どもが夢のあと。……

絵と文 蓮池高夫

文芸ふじさわ

第 57 集

目次



表紙のことば

「文芸ふじさわ第57集によせて」

川	柳	7
俳	句	25
短	歌	63
五	行 歌	75
現	代 詩	87
随	筆	97
編	集 後 記	136
サ	ー ク ル 紹 介	142



「文芸ふじさわ第57集によせて」

藤沢市教育委員会

教育長 岩 本 将 宏

「文芸ふじさわ第57集」が発行されますことをお祝い申し上げますとともに、長きにわたり、文芸を愛されるみなさまのために、作品集の発行を継続してこられたことに心から敬意を表します。

「文芸ふじさわ」は、市民のみなさまが、「短歌」「川柳」「俳句」「五行歌」「現代詩」「随筆」の創作活動を通して、自分の思いを表現し、その作品を多くの方々に披露できる場であると同時に、その作品をお互いに鑑賞しあう場でもあります。

文芸とは、言語を用いて表現する芸術作品であると思います。作品作りに取り組むことは、豊かな感性を育て、想像力を高めてくれます。作品作りを通して身につく論理的な思考力、そして多角的な視点は、現代社会で求められる大切な「生きる力」であると思いますので、多くの方にも取り組んでもらいたいと願っていますし、生涯にわたって取り組むことのできるこのような活動は、とても素晴らしいことだと思っています。

また、他者の作品をより深く理解するためには、その背景や心理などを探求することが求められます。作品を理解することは、「世の中をどのように見るか」「そこから見える真実とは何か」を追求していくことだと思います。この作品集が、みなさまの交流を通して、お互いの文芸を創作する力を高めあう場になることを心から願っています。

藤沢市では、「ふじさわ教育大綱 〈学びの環・人の和・元気の輪〉」を策定しています。短歌、川柳、俳句、五行歌、現代詩、随筆について学び、同じ趣味を持つ仲間とのネットワークを広げる「学びの環」、この作品集などを通して切磋琢磨し、お互いの技量を高めあう「人の和」、生涯学習としての文芸に出会い、取り組む意欲が元気につながり、豊かな人生となる「元気の輪」。この「文芸ふじさわ57集」を通して、すべてのみなさまの、さらなる「学びの環、人の和、元気の輪」が広がるきっかけとなることを願っております。

これからも、多くの文芸を愛するみなさまの発表の場として、「文芸ふじさわ」が、ますます充実、発展されることを願っております。